

令和七年度

日南市読書感想文・読書感想画

コンクール受賞作品集

第十七集

主催 日南市教育委員会  
協賛 株式会社ニチワ



## はじめに

第十七回日南市読書感想文・読書感想画コンクールに応募してくれた児童・生徒のみなさん、本当にありがとうございました。

コンクールには、各学校から多くの作品の応募がありました。この度、教育長として、読書感想文と感想画コンクール、両方の作品を拝見させていただき、皆さんの真剣な取り組みと素晴らしい才能に心から感動いたしました。

読書も絵を描くことも、感性を磨き、心を豊かにする素晴らしい活動です。皆さんのが今回の経験を通じて得た学びや喜びを大切にし、これからも様々なことに挑戦し、自分自身の可能性を広げていくことを心から応援しています。皆さんの未来が、豊かな学びと創造性に満ちたものとなることを願っています。

終わりに、本コンクールを実施するにあたり、御協賛いただきました株式会社ニチワ様をはじめ、指導や審査に際して多大な御尽力をいただきました学校関係者の皆様に対しまして、心からお礼申し上げます。

令和八年二月

日南市教育長 都甲政文

# 読書感想文コンクール目次

## 【小学校一年生の部】

銀賞 『おばけのアツチとドラキュラスープ』を  
よんで

銅賞 チョコレートってすてき  
榎原小学校 岩倉 禾歩・ 8

吾田小学校 松下 嵩弥・ 10

## 【小学校二年生の部】

銀賞 やさしいリリリーのように

吾田小学校 阿萬 祈来・ 11

## 【小学校四年生の部】

金賞 みんなで地球を助けましょう

大堂津小学校 落合 希光・ 22

銀賞 学校が消えるその前に

北郷小学校 谷元 彩咲・ 25

金賞 科学つておもしろい  
飫肥小学校 濱屋 佑弦・ 13

【小学校三年生の部】

銀賞 『たつた2℃で』を読んで

潟上小中校 小坂 璃海・ 26

銀賞 『たつた2℃で』を読んで  
榎原小学校 河野 芽樹・ 15

銅賞 失ぱいしても大じょうぶ  
細田小学校 酒井 姫乃・ 17

入選 『たつた2℃で』を読んで  
潟上小学校 井戸川 恭尚・ 18

入選 たつた2℃上がるだけで  
潟上小学校 竹田 結冬・ 20

入選 たつた2℃で  
潟上小学校 竹田 結冬・ 18

入選 『たつた2°Cで』 を読んで

潟上小学校 松山 珠結莉 まつやま あゆり 28

入選 音楽室でねずみが大あばれ

細田小学校 稲元 愛美華 いなもと あみか 29

### 【小学校五年生の部】

金賞 カラスとのきずな

北郷小学校 甲田 優心 こうだ ねね 31

銀賞 すべての命を大切に

飫肥小学校 坂元 伶名 さかもと れな 33

入選 『ゆきだるまのあたま』 を読んで

吾田小学校 大久保 凉翔 おおくぼ りょう 35

### 【小学校六年生の部】

銅賞 私がもらつた勇気

東郷小学校 松浦 笑溜 まつうら えみる 38

### 【中学校の部】

金賞 『明日、君が死ぬことを

僕だけが知っていた』

吾田中学校 三年 中津留 なかづる 瞳介 そうすけ 41

銀賞 目指せ県大会!!

細田中学校 二年 岸本 空恋 きしもと あこ 44

銅賞 音が消えてゆく世界

榎原中学校 三年 河野 茉友 かわの まゆ 47

入選 『下町サイキック』 を読んで

東郷中学校 三年 池田 未来 いけだ まどか 50

入選 個性ある自分

榎原中学校 二年 山本 琉央 やまもと ゆずき 54

読書感想文の審査を終えて

・・・・・  
57

読書感想画コンクール目次

## 【小学校二年生の部】

|          |            |        |      |
|----------|------------|--------|------|
| 金賞       | かわいそなぞう    | ただち    | こたろう |
| 銀賞       | かいじゅうのすむしま | 桜ヶ丘小学校 | 忠地   |
| 銅賞       | かいじゅうのすむしま | 吾田東小学校 | 鈴木   |
| 入選       | おまえうまそだな   | 油津小学校  | 竹脇   |
|          | ほつた        | 發田     | あおい  |
| 入選       | いつすんぼうし    | 怜央     | ゆうしん |
|          | れお         |        |      |
| 南郷小学校    | 水野         | 琴葉     |      |
|          | みずの        | ことは    |      |
| 小学校三年生の部 | ・          | ・      | ・    |
| 金賞       | たんだのたんけん   |        |      |
| 潟上小学校    | ・          | ・      | ・    |
| 谷口       | たにぐち       |        |      |
| 結理       | ゆり         |        |      |
|          | 64         | 62     | 63   |
|          | ・          | ・      | ・    |
|          | 65         | 64     | 63   |

**銀賞** 火の鳥

桜ヶ丘小学校 島田 潤奈

しまだ  
じゅんな

**銅賞** 雪窓

東郷小学校 中村 晴太郎

なかむら  
こうたろう

**入選** かぶとむしとくわがたむしのひみつ

吾田小学校 河野 新

かわの  
あらた

**入選** みんな、空をとべる

北郷小学校 河野 萌音

かわの  
もね

**【小学校四年生の部】** · · · · · 66 · 67

**金賞** 小学館の図鑑NEO 魚

南郷小学校 上原 叶聖

うえはら  
とうま

**銀賞** 馬子と山んばばあ

東郷小学校 竹中 風結

たけなか  
ふゆ

**銅賞** ぼくのがつこう

大堂津小学校 岡澤 芽生

おかざわ  
めい

**入選** 銀河鉄道の夜

桜ヶ丘小学校 井上 大護

いのうえ  
だいご

**入選** うまれてきてくれてありがとう

吾田小学校 荒武 唯月

あらたけ  
ゆづき

**【小学校五年生の部】** · · · · · 68 · 69

**金賞** わたしの名前はオクトーバー

南郷小学校 城戸 妃羽

きど  
ひわ

**銀賞** 白いりゅう黒いりゅう

桜ヶ丘小学校 長友 翼

ながとも  
つばさ

**銅賞** 羽毛恐竜 恐竜から鳥への進化

吾田東小学校 矢上 空

やがみ  
そら

**入選** ねむれないおうさま

北郷小学校 川畑 ひかり

かわばた  
ひかり

**入選** 三分間ミステリー悪魔のささやき

飫肥小学校 小野 琴音

おの  
ことね

**【小学校六年生の部】**

70  
71

**金賞** ぼくのこころがうたいだす！

吾田小学校 板東 桃愛  
ばんどう もあ

**銀賞** マツチ売りの少女

飫肥小学校 濱田 一華  
はまだ いちか

**銅賞** かなたの i f

油津小学校 魚見 市香  
うおみ いちか

**入選** わたしのあくびみなかつた？

大窪小学校 杉田 悠馬  
すぎた はるま

**入選** じいちゃんの山小屋

細田小学校 森 霽月  
もり しづく

読書感想画の審査を終えて

72

審査員氏名一覧

74

讀書感想文入賞作品

# 【小学校一年生の部】

銀賞

『おばけのアツチとドラキュラースープ』をよんでも

## 『講評』

本をよんできになつたところやおもしろくおも

つたところを、どうしてそうかんじたかをわかるように  
しつかりとかいています。

チヨコレートやさんやアイスクリームやさんにきよ  
うみをもつたことで、じぶんのゆめもたのしくあらわし  
ていました。それに、出てくるとうじょうじんぶつのこ

わたしは、『おばけのアツチとドラキュラースープ』と  
いうおはなしをよみました。どうしてこのおはなしをえ  
らんだかといふと、まえよんだときにおもしろかったか  
らです。

このほんのちゅうしんじんぶつは、アツチとドララち  
ゃんです。アツチはおばけで、ドララちゃんは、ドラキ  
ュラのまごむすめです。

これからも、おもしろそうだとおもう本を、たくさん  
見つけてほしいです。

アツチは、レストランヒバリのコックさんです。わた

榎原小学校 一年 岩倉 禾歩

しが、いちばんすきだったのは、アツチがちょっとかわつたメニューをつくるところです。メニューのなまえが、

よんだほん

「おばけのアツチとドラキュラスープ」

おもしろかったからです。たとえば、「すべりだいフルーツパフェ」です。おもちゃみたいでおもしろいなどおもいました。

わたしのゆめは、アイスクリームやさんになることな

ので、まねしたいとおもいました。

ドララちゃんもかくれてりょうりをしていたので、ドラキュラのスープのつくりかたがわかりました。ちのスープのようなトマトをつかったスープでした。このつくりかたは、みんなにはないしょです。ほんをよんだひとだけがわかります。わたしのかあちゃんは、しっています。どうちやんにもよんでもらいたいです。

## 銅賞

チヨコレートつてすてき

吾田小学校 一年 松下 嵩弥

「す！」といいました。おにいさんが「きつとなれるよ」といいました。まいにちおにいさんのおみせがあるまちにかよいました。もりのみんながよろこんでくれるチヨコレートをがんばってつくりました。もりにちいさなチヨコレートやさんができました。もりのみんながきて、チヨコレートをたべてよろこびました。

ぼくは、チヨコレートをもりのみんなにあげているところがすきです。みんながえがおになるからです。

このほんをよんと、みんながえがおになるからです。

かよしのおともだちです。キタリスくんは、はずかしがりやです。シマリスくんは、いたずらっこです。もりでおにいさんのくるみをひろうおてつだいをして、チヨコレートをもらいました。おいしいとよろこびました。り らびました。

ふわふわしつぽのキタリスくんとシマリスくんは、な  
かよしのおともだちです。キタリスくんは、はずかしが  
りやです。シマリスくんは、いたずらっこです。もりで  
おにいさんのくるみをひろうおてつだいをして、チヨコレートをもらいました。おいしいとよろこびました。り よんだほん

「きょうれつのできるチヨコレートやさん」  
くんたちは「ぼく、チヨコレートやさんになりたいで

## 銀賞

### 【小学校二年生の部】

やさしいリリーのように

吾田小学校 二年 阿萬 祈来

#### 『講評』

本を読んだことで、友だちともつとなかよくなりたい、だれにでもやさしくしたいとかんじることができたことは、とてもすばらしいことだと思います。

した。

そうした気持ちになつたねこたちのことを、やさしい気持ちになりながら読んでいたことがつたわつてきます。友だちと出会う大切さやじぶんの中に生まれたやさしさが、ていねいに書きあらわされていました。

もし、わたしがねこをかつたとしても、いっぱいあそんでもつともつとなかよくなつて、楽しい思い出をたくさん作つていきたいなと思いました。

たけださんちのリリーは、きれいすぎでとてもつやつやしているのが自まんでした。パパさん、ママさんには、本からかんじた力は、じぶんの心も大きくしてくれるのですね。

一日の元気を出させ、お気に入りのともきくんとは、ず

つといつしょにいるとやくそくをしていました。

みんなのあいをひとりじめするため、ともきくんの女  
友だちも手入れしていない子ねこを家に入れることも、  
全力でいやがっていました。

目つきのわるい黒ぶちのねこが通ると目をそむけて、  
かかわろうとしませんでした。

そんなある日、まいごになつたリリーは、よわつた黒  
ねこと子ねこたちをたすけようとする黒ぶちに出会い  
ました。

いつもは、目つきがわるいいやなねこだと思っていた  
黒ぶちが、めんどう見のいいやさしいねこだということ  
を知りました。

それに、子ねこをなめてあげた時、その子はすぐくう

れしそうな顔をしてよろこんでくれました。自分も子ね  
この時に、なめてもらつたことを思い出して、やさしい  
気もちになつていきました。

心も広くなつたリリーは、新しいねこのおせわをし、  
黒ぶちにもあいさつするようになりました。

わたしも、見た目で人のことをきめつけず、友だちの  
いいところを見つけて、今よりも、もつとなかよくなり  
たいです。

そして、だれにでもやさしい、みんなにたよられる人  
になりたいです。

読んだ本「しろいねこリリー」

金賞

## 【小学校三年生の部】

科学っておもしろい

飫肥小学校 三年 濱屋 佑弦

### 『講評』

科学や言葉にかかわることにきょうみをもち、テーマをうけとめながら読んだことで、自分で感じたり考えたりしたことを、分かりやすく書いています。

「どうして？」「ここがおもしろい！」と感じること

は、読んでいる人によつてちがいます。だから、感じ方も考え方もたくさん出でくるものです。その楽しさや面白さをたくさん感じ取ってくれたことがしつかりと伝わつてきました。

これからもいろんな本から、いろんなことを学んでいってほしいです。

ぼくは、一年生のときに、『なぜ？どうして？一年生』という本にであいました。家にこの本があつて、読んでみると今まで知らなかつたことを知ることができて、「この本おもしろい！」と思いました。

読んだ後に、シリーズ二年生、三年生があることを知り、三年になつてこの本を読むことを楽しみにしていたので読んでみました。

まず、一番おもしろかったのは、風船が地上から八千メートルまでとんでいくことができるということです。

口でふくらませた風船は、とぶことができません。でも、空を飛んでいく風船があるのは、どうしてかとふしげに思いました。このシリーズの一年生の本に書いてあることを思い出しました。そこにはヘリウムガスという気体が、空気よりかるくて、ヘリウムを風船に入れると風船がうくことが書いてありました。ヘリウムガスを入れた風船をとばしてみたいと思いました。

次に、おもしろいと思ったのは、電気を作るのには、いろいろな方ほうがあるということです。火力発電、太陽光発電、原子力発電、風力発電、水力発電、地ねつ発電の六つの方ほうが書かれていました。この中で一番きょう味を持ったのは、太よう光発電です。本当に太ようから電気が作れるのかふしげに思いました。町の中を

氣をつけていると、太よう光発電のパネルを見つけることができました。本当に発電しているのか、たしかめることができないので、実けんしてみたいと思いました。

さいごに、人間は火星にすむことができるかということにきょう味を持ちました。火星と地きゅうはどうちがうのかふしげに思いました。地きゅうはさんそどちらそがバランスよくつづまれていて、火星はほとんどが二さんかたんそで、さんそがほとんどないことが分かりました。へいきん気おんは、地きゅうは十五どで火星はマインス五十五どです。このことから、今は、火星にはすむことができないことが分かりました。今は、すめなくてもいつかはすんでみたいと思いました。

ぼくは、この本を読んで、科学のふしげにますますき

よう味を持ちました。自分でも調べてみたいことがでて

## 銀賞

きて、わくわくします。四年生になつたら、このシリーズ

ズの四年生も読んでみたいですね。そして、大人になつた

榎原小学校 三年 河野 芽樹

ら、火星に行つて、風船をとばしたり、太よう光発電の

実けんをしたりしてみたいですね。

ぼくがこの本を読んで強くおもつたことは、たつた  
2°Cで死んでしまう生き物がいるから地球の気温をも

う少し下げた方がいいということです。

読んだ本「たのしい！科学のふしき  
なぜ？どうして？三年生」

また、あつさでウミガメが少なくなっているということ  
とにびっくりしました。あつさでウミガメはオスしかう  
まれなくなります。たまごを持ったメスがどんどん死ん  
でしまいます。たまごがうめないからどんどん少なくな  
つて、見られなくなることがあるかもしれないということ  
とです。

そして、一番心にのこつたことは、雨がふえたことで  
オラウーダンのえさが少なくなり、オラウーダンがうえ  
ている、ということです。あつさや雨のせいでのオラウー  
ダンがうえているとは知りませんでした。

“ぼくはあつかつたらすぐクーラーやせん風きです  
しくなるけど、あつい地いきにいる動物や虫は、人のよ  
うにあつきをしのげないと私は思います。

もし自分が虫や動物だったら、あつくて秋まで命がも  
たないと思います。

次からは動物や虫のことを考えて、地球の温度が上が  
る行動ができるだけ、ひかえていきたいです。

たとえばゴミの分別をすることです。そうすることでも  
えるゴミがへって、もやす時間がみじかくなります。

また、リサイクルをすることが大切だと思いました。  
あつさでぜつめつきぐしゅになつている動物をたす  
けるために、今考えたことを自分からすすんでいたいで  
す。

そして動物たちも住みやすいかんきょうにしたいで  
す。

読んだ本「たつた2°Cで・・・」

## 銅賞

失ぱいしても大じょうぶ

細田小学校 三年 酒井 姫那乃

ばれしてみんなをふきとばしてしまいます。三回しつぱいしたけどまたやさんは、また大きな食べ物を買ってしまいました。きっと、またやさんは何回も買ってしつぱいしたけど食べたい気持ちが強かつたのだと思います。

「もう買わん。ほんまに買わん。」この言葉は、大きべんです。わたしは、この本を読んだ時とつてもおも白いなと思いました。読む時の声をかえたら、もつとおも白いなと思いました。おも白くて、何ども本を読みました。

さらに、たくさんの友だちによろこんでもらうために、買つてきているのだと思います。またやさんは、みんなをおなかいっぱいにさせてあげないと、考えていると思います。またやさんは、いい人です。

した。

この本の好きな所は、何かいも、同じことをくりかえ

しているところです。同じことというのは、市場でとて

も大きな、食べものを見つけて、買つてしまつということです。でも、食べようとすると大きな食べ物は、大あ

わたしもまたやさんみたいに、とてもやさしくしたいと思っています。

しかし、みんなを楽しませようとしておもちゃを出しすぎて、あつという間にきたくなつてしまいます。大失ぱいでおこられてしまいます。しかも、一回だけでな

く何回もくり返してしまいました。自分も失ぱいをくり

## 入選

かえしているじゃないか、と思いました。でも先生が、

「でもみんながよろこんでくれるなら、オッケー。」

と言つてくれました。でも、失ぱいは、へらしたいなど

思いました。

このおも白い本をみんなに、読みきかせしました。わ

たしが読むと、

「ひなさん、大きべん上手。」

とほめてくれました。わたしは、またおも白い本をかり

のにお話なのかなと思いました。ぼくは、地きゅうおんだんかという言葉をはじめて聞きました。

て、読みきかせをしたいです。大きべんではなく、いろいろな言葉を知りたいです。

『たつた2°C』には、魚やウミガメ、ジャイアントパンダなどの生物が出てきました。

読んだ本「とてもおおきなサンマのひらき」

が、とくにおどろきました。

## 『たつた2°Cで』を読んで

鴻上小学校 三年 井戸川 恭尚

地きゅうのおんどうがたつた $2^{\circ}\text{C}$ 上ると、ジャイアン  
トパンダのくらすところの、タケとサケがよくそだたな  
くなり、ジャイアントパンダの食べる物は、早いうちに  
へつてしまふそうです。これを知つて、かわいそうだな  
と思いました。パンダの食べものがなくなるからです。

もし、食べ物がなくなつたら、パンダはしんでしまいま  
す。

『たつた $2^{\circ}\text{C}$ で』を読んで、生物たちがかわいそうな  
気持ちになりました。今までのぼくは、せんぶうきをけ  
しわされることと、電気をけしわされることがありまし  
た。つけっぱなしにすると、地きゅうおんだんかにつな  
がることをしりました。だから、これからは、せんぶう  
きをつけたときは、そこをはなれるときにかならずけし

て出ることをいしきしていきたいです。また、へやを出  
ていくときは、電気をけすボタンをおすことをくせづけ  
てすぐしたいです。そして、すこしでも地きゅうおんだ  
んかを止めたいです。

読んだ本「たつた $2^{\circ}\text{C}$ で・・・」

## 入選

たつた2°C上がるだけで

鶴上小学校 三年 竹田 結冬

この本と出会った、きっかけは、先生が読み聞かせをしてくれたからです。

ダは、食べ物のタケとサケがよくそだたなくなつて、おなかをすかしてしまうそうです。これを知つて、たつた2°C上がるだけでジャイアントパンダの食べ物がなくなつてしまふなんてひどいなあと思いました。

『たつた2°Cで』を読んで生き物たちがかわいそうという気持ちになりました。

うふうにへんかするのかなと思いました。ぼくは、地球温暖化という言葉をはじめて聞きました。

『たつた2°Cで』には、魚や、ウミガメや、虫や、サンゴショウなどの生き物たちが出てきました。

ぼくは、この本に出てきたジャイアントパンダのことが、とくにおどろきました。

今までのぼくが気にせずしてしまつたのは、のこしたごはんをすててしまつていたことです。ごはんをすると、ごみがあえて、たくさんのごみをもやすことで地きゅうおんだんかにつながります。

これからごはんをしつかり食べていきたいと思います。にがてな食べ物は少しづつでも食べられるようにし

て、食品ロスをへらして地きゅうおんだん化を止めたい  
です。

読んだ本「たつた2°Cで・・・」

# 【小学校四年生の部】

金賞

みんなで地球を助けましょう

## 『講評』

本を読もうと思ったきっかけや理由が素直に表現さ

れていました。

また、本を読んで初めて知り得た時のおどろきや心を動かされたことを自分の体験と照らし合わせて、自分なりの感想として述べてあることに感心しました。

私の平熱は三十六度台です。病氣でたつた二度上がり、三十八度以上の体温になると、食欲がなくなり身体もだるく、ねこんでしまいます。

この本の表紙は背景が赤く、氷が溶けだし白クマやぞ

うなどの様々な動物の表情が苦しそうに見えました。

最期に、本を読んで学んだことを、これから自分の生活にどう生かすか考えており、すばらしいと思いました。これからも心に残るたくさんの本と出会えるといいです。

この本には、水温や気温が二度上がる、海の中やり

大堂津小学校 四年 落合 希光

くに住んでいる生き物が不幸になつていくことが具体的に紹介してありました。たつた二度の変化で、地球でくらす生き物の命があぶなくなることがわかり不安になりました。

私が特に印しようにのこつた場面は、サンゴが真っ白になり死んでしまうところです。今まで水族館やテレビで、サンゴしようのまわりを、クマノミやチョウウチョウウオなどの海水魚が泳いでいるところを見ました。魚は

色鮮やかでかわいく、サンゴの様々な形が面白く、大好きです。ところが、海水の温度が二度上がつただけで、サンゴは全部白くなり死んでしまい、魚もいなくなり、命があふれていた海は死の海になつてしましました。このようなことを初めて知り、びっくりし、悲しくなりました。

私はこの本を読み、作者の伝えたいことは、二つあるのではないかと感じました。一つ目は、地球温だん化によつておきているいじょうな気候が、多くの生き物の命をあぶなくしていることです。二つ目は、これ以上、地球が病氣にならないよう、熱が出ないように、私たちは地球の手当をし、助けなければならぬということです。

人間のように、病氣になつた時に薬を飲んで元気になります。ところが、地球温だん化が進まないよう、私にできることを考えました。しかし、私はむずかしい課題だったので、インターネットを使い調べました。調べてみると多くの取り組みがしようかい

されていましたが、その中から私にでもすぐに実せんできることを三つ決めました。

て考えてほしいです。

一つ目はせつ電です。例えば、電気をつけっぱなしにせず、使わない時はこまめに

消したり、エアコンの設定温度を低くしたりしないこと

です。二つ目は、水を大切に使うことです。例えば、シ

ヤワーを出す時間を短くしたり、お風呂ののこりの湯を

せんたくに使ったりすることです。三つ目は、ごみをへ

らすこととリサイクルです。例えば、ごみの分別をした

り、お下がりにできる物は友達にゆずつたりすることで

す。このようなことに毎日取り組み、地球を元氣にする

ことができればよいと考えます。

この本は、地球温だん化について知りたい人におすすめです。しかしみんなに読んでもらい、環境問題につい

読んだ本「たった2°Cで・・・」

## 銀賞

学校が消えるその前に

北郷小学校 四年 谷元 彩咲

わたしは、『小学校がなくなる』という本を読みました。

この本を選んだのは、市立図書館の四年生向けのコーナーでおすすめされていたからです。タイトルを見て、「えつ、学校がなくなるってどういうこと?」とおどろいて、気になつたので読んでみました。

このお話は、都小学校という小さな学校がなくなつてしまふかもしれないと思った九人の子どもたちが、学校を守るためにはどうしたらいいかを一生けんめい考え、

いろいろな行動をしていくお話をします。

わたしが一番心に残つたのは、子どもたちがしょ名を集めることです。はがきを作つたり、学校が大切だという気持ちを人に伝えたり、みんなで力を合わせてがんばつたりするところに心を打たれました。また、そんな子どもたちに、

「がんばつてね。」

と声をかけてくれる人やおうえんしてくれれる人がたくさんあらわれて、とてもあたたかい気持ちになりました。

この本を読んで分かったことは、都小学校のことを大切に思つている人がたくさんいる、ということです。通つている子どもたちも、まわりの大人たちも、学校がなくなるのをさびしく思つているんだなと感じました。ま

た、子どもたちが「学校をなくしたくない」という気持

ちを形にするために、ちゃんと話し合って、自分たちに

できることを考えて、一つずつ行動していくところが

すごいと思いました。ただ口で「いやだ」と言うだけじ

やなくて、行動にうつすことの大切さもわかりました。

わたしは、学校があることはあたりまえのことだと思

つっていました。でも、今ある学校がずっと続くとはかぎ

らないんだということに気づきました。わたしの通つて

いる学校にもたくさん思い出がつまっていて、友達と

すごす時間がとても大切だな、とあらためて思いました。

これからは、学校で過ごす時間をもっと大切にして、

友達と楽しい思い出をたくさん作つていきたいです。

読んだ本「小学校がなくなる！」

## 銅賞

『たつた2°Cで』を読んで

鴻上小学校 四年 小坂 璃海

この本と出会ったきっかけは、先生が読み聞かせをしてくれたからです。

『たつた2°Cで』という題名から2°C温度が上がったり、下がったりする本なのかなあと思いました。わたしは、地球温だん化という言葉を知っていました。

『たつた2°Cで』には、魚やサンゴ、ゴマファザラシ、ウミガメ、ジャイアントパンダ、虫、人などが出てきました。

わたしは、この本に出てきたゴマファザラシのことが、

とくにかわいそうでした。

地球の温度がたつた $2^{\circ}\text{C}$ 上ると、ゴマファザラシは、赤ちゃんをうみそだてるがんじょうな流水ができなくなり、うすい流水をわって入ってきたシャチから、赤ちゃんと親のアザラシが食べられてしまうそうです。

これを知つて、温度がたつた $2^{\circ}\text{C}$ 上がつただけなのに、ゴマファザラシの赤ちゃんと親が、シャチに食べられる

から、わたしは、かわいそうだなあと思いました。だか

ら、わたしは、シャチに、ゴマファザラシが食べられな  
いように地球温だん化をへらしたいなあとと思いました。

『たつた $2^{\circ}\text{C}$ で』を読んで、たつた $2^{\circ}\text{C}$ しか温度は上  
がつていないので、こんなに生き物たちにえいきようを  
あたえているのだなあと思いました。わたしは、生き物

たちの気持ちも大事にしていきたいと思いました。

今までのわたしは、かんきょうのことを気にかけず、夏はずつとエアコンをつけっぱなしにしたり、水もむだ使いをしていたりしていたので、これからは、生き物たちのこともみんなのことも考えて、気をつけていきたいです。そして、地球温だん化もふせぎたいと思いました。

読んだ本「たつた $2^{\circ}\text{C}$ で・・・」

## 入選

### 『たつた2°Cで』を読んで

潟上小学校 四年 松山 珠結莉

ふえて、野さいや米などはもちろん、かんきょうに大きなこんらんをもたらしてしまうそうです。

これを知つて、ちょっとこわい気持ちになりました。

この本と出会つたきっかけは、先生が読み聞かせをしてくれたからです。

『たつた2°Cで』という題名からちょっとした温度で

大変なことが起きるのかなと、想ぞうしました。わたしは、地球温だん化という言葉を知つていきました。

『たつた2°Cで』には、虫や魚やゴマファザラシなどが出てきました。

わたしは、この本に出てきた虫のことがおどろきました。

た。

地球の温度がたつた2°C上がるごとに、虫は、ばく発的に

だから、これからは、電気を使わないときはこまめに

もし、たくさんの虫がふえてしまつたらきけんな虫が人をおそつてしまふかもしぬなくて、あぶないからです。

『たつた2°Cで』を読んで地球温だん化になると、虫はふえるけど魚や動物は少なくなつてかわいそ.udと思いました。

今までのわたしは、電気をつけっぱなしにしてしたり、使えなくなつた折り紙をすぐ捨ててしまつたりしていました。そうすると、地球温だん化につながることを知りました。

りました。

消します。また、使えなくなつた紙は、図工の工作など

で再利用したいです。そして、地球温だん化をこれ以上

音楽室でねずみが大あられ

進めないようにしたいです。

## 入選

細田小学校 四年 稲元 愛美華

読んだ本「たつた2°Cで・・・」

わたしは『歌うねずみウルフ』という本を読みました。

この本を選んだのは、この本が面白そうだと思ったから

です。

この本は、歌うねずみウルフが主人公の物語です。歌うねずみウルフはやさしい人です。そして、歌うねずみウルフは、音楽が好きで歌の体験をします。

わたしが好きなところは、ピアノの上でスケートをしているところです。どんな音がするのか分からなかつたので先生が、

「今度ピアノでやつてみましょうか。」

と説ってくれました。わたしは、

「どんな音か楽しみです。」

と言いました。

音楽でまず白けんをする、をやりました。キュキュ

ーとねずみがうれしい気持ちですべつているみたいな音がしました。木きんや鉄きんでも低い所から高い所へ

一気に走るというのをためしました。木きんは森の中で

遊んでいるみたいでした。大きさによつてなる音が変わ

りました。鉄きんはどんどん高い音から大きい音になり

ました。ガラスみたいな音できれいでした。木きん、鉄

きん、ピアノ、オルガン、全部をあわせました。クラス

みんなでひいたらきれいな音でした。みんなあわさつて

いい音でそれぞれの音がかぶさつていい音でした。友達と一緒にかけっこをしているみたいで面白かったです。みんなの音があわさつてきれいと思つたり、聞いてこんなにきれいなんだと思いました。ためしてみて、うれしい

気持ちになりました。

この本は市立図書館で借りました。おすすめの本にあってねずみが歌うから面白そうだなあと思つたから選びました。次のたいよう号がくるのも楽しみです。

読んだ本 「歌うねずみウルフ」

# 【小学校五年生の部】

金賞

カラスとのきずな

北郷小学校 五年 甲田 優心

なぜその本を読もうと思ったのか、本との出会いや読もうと思ったきっかけがしつかり書かれていました。読み進める中で、自分の経験や実生活と比べながら五年生なりに、深く考えているところに感心しました。

『森に帰らなかつたカラス』に出てくるニシコクマルガラスは、弱つたひなのすがたで主人公とその友達に公園で拾われました。動物好きの主人公が、ニシコクマルガラスのひなを家に持つて帰り、周りの人達に支えられた将来の夢に関連付けた思いがしつかり書かれており、のども素晴らしい感想文でした。

カラスはたいてい森にいます。木の上にとまって、

これからも様々なジャンルの本と出会い、心に栄養を

たくさんつけてほしいと思います。

「カーカー。」

と鳴っています。そしてお腹がすくと人間の世界におり

て来て、ゴミをあさります。人間にとつてイメージの悪いカラス。それなのにこの本の主人公は、ニシコクマルガラスのひなを持つて帰つて育てようとした私はそこで、はつとしました。カラスを飼うなんて信じられないと思つたからです。人間がカラスを育てられるのかなどと思いました。主人公の家族はバブを営んでいて、そこの常連客や主人公の友達からもカラスはかわいがられていました。かわいがられそうにもないカラスが、周りの人達にかわいがられていたのは主人公がカラスを一生けん命育てているがたが伝わったからだと思います。カラスが大きく育つて成長するとうれしいと思うし、エサを食べて貰ふこともうれしいと思います。うれしい事を周りの人達と楽しむことで、よりうれしくなると思います。

ると思います。でもカラスを育てるには楽しい事ばかりではありませんでした。カラスがとつ然いなくなるという事件がおきました。私は目の前が暗くなり、ぞつとしました。なぜなら、私もペットを飼つていて、同じ場面を考えてしまつたからです。主人公もぞつとしたと思いました。必死に探して見つかった時には、ほつとしたと思います。はなれたくないという気持ちが伝わりました。私のお父さんとお母さんは、にわとりを育てる仕事をしています。毎日エサをあげたり、病気にならないように注射をしてあげたり、育てる大変さがとても分かります。そして、にわとりとお別れをする時がきます。涙が出ます。主人公がカラスを想う気持ちと、私がにわとりを想う気持ちは同じだなと思いました。

生き物を飼うという事は出会いも別れもきます。カラ

銀賞

スは元あるべき森に帰った方が幸せなのではないかな

と思つたけど、主人公とカラスは、はなれられないきず

ながありました。ペットだけど家族の一員のように育てられて、言葉がなくても心を通い合わせてコミュニケーションをとつてているように感じたからです。

これまでのカラスは、ゴミ袋の中をあさって食べ物を探したり、農作物を食べたりいやなイメージだつたけど、カラスに対する見方が変わりました。主人公のように温かい目でカラスを見守りたいです。

すべての命を大切に

飫肥小学校 五年 坂元 伶名

みなさんは、自然や動物たちを大切にできていますか？

この本は、題名のとおり、動物と話せる少女リリアーネが、動物たちとさまざまな事件を解決する冒険物語のシリーズです。私が読んだお話は、リリアーネが誘拐されて、オオカミのアスカンに助けてもらうというお話をす。

読んだ本「森に帰らなかつたカラス」

この本を読んで、一番感動したところは、アスカンがりょうしにつかまりそうになつたときに、リリアーネが

りょうしに立ちむかって、

「危険ではありません！このオオカミはちがいます！」

と言つて、アスカンを助けたところです。

私もこの本を読む前は、この本に出てくるりょうしや、

森林管理局の人たちと同じように、オオカミは危険な動

物だと思つていました。なぜなら、オオカミは肉食動物

だからです。私の中では、肉食動物は危険だというイメージがとても大きいです。でも、この本を読んで、オオ

カミに対しての考え方が少し変わりました。もしかしたら、オオカミではなく、森林をあらしたりする、人間の方が危険なのではないかと考えるようになりました。

この本の訳者、中村智子さんなかむらともこのあとがきに、「人間が

オオカミにおそわれた報告は今のところはない。本書の

中でも、リリアーネや動物たちがうつたえていましたね。

危険なのは動物ではない、人間だ、と。人間が動物たちの生活圏にふみこみすぎさえしなければ、ともに平和にくらせるのかもしれませんね。」と書かれてありました。

私もそう思います。

オオカミ以外の野生の動物も、危険だと勝手に決めつけられたり、都市開発のために、動物たちが住む森林をこわされたりして、動物たちがかわいそうだと思います。

もちろん、自然界には危険な動物たちもいるというのを知っています。でも、人間が森林をできるだけ残し、勝手なきめつけをやめていけば、人間と動物たちは平和にくらせるのかもしれないと思います。

私は、この本を読んで、野生の動物たちを守る取り組

みに、私も少しでも協力できることはないかを調べてみ

たいなと思いました。

そして、動物や森林、花などの自然を大切にしていきたいなと思いました。

動物と自然、そして人にやさしくできる人になるために、少しでも自分にできることをさがして、がんばっていきたいです。

## 入選

『ゆきだるまのあたま』を読んで

吾田小学校 五年 大久保 凉翔

なぜ、ぼくがこの本を読もうと思ったかというと、一

年生のころに読んだことがあってこの宮崎は、あまり雪がふらないので、雪の本を読んでみたいと思つたからです。

読んだ本 「動物と話せる少女リリアーネ

さすらいのオオカミ森に帰る！」

まだ頭を作つていませんでした。男の子が、  
「雪だるま君、後で頭を作つてあげるね。」

と言いました。ぼくは、男の子の表情から、うれしそうに、やさしく言つていたのが分かりました。

しかし、男の子は、いつたん昼ごはんを食べに家に帰

りました。

次に、犬が出てきて、雪だるまが、

出てきて、

「早く頭がほしいなあ。」

と言つたので、犬が頭になつてあげました。この犬は、

と言つて、とび出してきました。雪だるまは、

とてもやさしい犬だなあとと思いました。

「ちょうどいい。」

次に、石が来て、雪だるまの頭になつてくれました。

としました。とてもうれしそうでした。

でも、石は、めりこんでしまい、ダメで悲しそうでした。

次に、小鳥が空から飛んできて、雪だるまの頭にのつ

ぼくは、石はやさしかつたのに頭になれず、残念だなあ  
と思いました。

次に、小鳥が空から飛んできて、雪だるまの頭にのつ  
ているパンをみんな食べてしましました。ぼくは、小鳥  
のパンを食べるすがたが、とてもかわいなあと思いました

した。

次は、三角コーンが来てくれました。雪だるまの頭になつてくれて、雪だるまは、気に入つてうれしそうでした。

そして、やつと、男の子がやつて来て、うれしそうに、  
た。三角コーンは、工事中で、仕事中なのに来ていたの  
が、とてもおもしろかったです。

と言つて雪だるまの頭を作つてくれました。雪だるまが

次は、パン屋の車がきました。そして、パンが車から

「ぼくならすてきな頭だよ。」

完成し、雪だるまは、とてもうれしそうでした。犬も来て、いつしょに、喜んでうれしそうでした。

ぼくは、この本を読んで、とてもおもしろく、どんどん雪だるまの頭が、変わつていて、想像力がとても高まりました。ぼくが、特に、印象に残つてたところは、小鳥が飛んできたところです。とてもかわいく、おなかがすいていたんだなあと思いました。

この本の登場人物は、みんなやさしくて、ぼくも、このようなやさしさをもつて、生活していきたいです。

本は、集中力を高めたり、想像力をふくらませたりできるので、これからも、本にふれあって、もっと、自分の世界を広げていきたいと思います。

読んだ本「ゆきだるまのあたま」

# 【小学校六年生の部】

銅賞

私がもらった勇気

## 『講評』

本を読むきっかけや、さまざまな場面で自分がどう感じたのか、何に共感したのかが丁寧に書かれています。まるで本の中の登場人物の一人として物語を体験しているようで、読んでいて引き込まれました。また、

ました。

自分のまわりにはいろいろな考え方があること、友だちに相談することの大切さ、そして一人ひとりの気持ちを大切にすることなど、多くの学びが伝わってきました。一冊の本との出会いが、心に長く残ることもあります。これからも、そんな素敵な本との出会いを大切にしてくださいね。

私がこの本を選んだ理由は、なぜおおなわを飛びたくないのかが知りたくなりこの本を読むきっかけになりました。

この本の主人公の女の子は、生まれつき左足が弱く、運動が苦手でした。おおなわ大会にむけて、練習をしていたけどクラスが勝てないと思い見学すると言つたことが物語のはじまりです。でもクラスのみんなから、たくさんの意見がされました。このおおなわ大会は、小学校で長くつづいていて、保護者も見にきていて、一番多く

東郷小学校 六年 松浦 笑溜

跳べたクラスがゆう勝し、大きなトロフィーがもらえるのでみんな気合いが入っていました。

みんなとの思いとは別で、女の子の気持ちは、めいわくをかけたくない。でも自分も本当はやりたかった。足は悪かったけど、

「これをしてはいけない。」

と、お医者さんにとめられていることはない、できるこ

とは、みんなと同じように、なんでもやりたかった気持ちが私の心に一番ひびきました。私も自分の気持ちに素直になれない時があるので分かります。

そして、クラスの学級会の話し合いの中で、

「多様性を大切にしよう。」

と言う案がでました。男だから女だから、障害があるか

らないからではない。差別してはいけないと話し合いの中ででした。そのことにより、女の子の気持ちに変化

がでてきて、自分の役割を見つけることができました。

それは、見学ではなく、女の子も目標を決めて跳ぶという事です。大会まで何度も練習をして、ひつかかれた時や、つかれだしたときに伝える言葉も、

「頑張れ!!。」

ではなく

「ドンマイ。」、「おいしいよ。」

などの言葉で声かけをしました。

私はこの場面を読んだ時このクラスの皆が好きになりました。私がこの本に出てくる人物だつたらすごい勇気をもらえて一人じゃない、つらい時は皆がそばにいて

くれる。と思えたからです。そしてこのクラスのすごい

事が苦手なのでこの本を読んで勇気をもらいました。

所は、学級会で話し合った、

「目標回数を跳べばいい方法。」

が他のクラスにも伝わり広がっていき、苦手な人もプレッシャーでつらくならずに参加でき、記録にも取り組めるという大会になつた事です。優勝する事だけが大事ではなくて、一人一人の気持ちが大切にされていると感じました。

この本を読んで私が思った事は、一人で悩むのではなく色々な意見を聞いてみる事が大切だと思いました。クラスの中では、自分が思っていない気持ちを言う人もいたけれど、自分の考えがうまく伝えられないと思った時に、友達が助けてくれました。私は自分の気持ちを伝え

読んだ本「おおなわ飛びません」

## 【中学校の部】

### 金賞

『明日、君が死ぬことを僕だけが知っていた』

吾田中学校 三年 中津留 風介

『明日、君が死ぬことを僕だけが知っていた』を読み終えたとき、胸の奥に重いけれど温かい気持ちが広がりました。読む前はタイトルからも少し不思議で、少し怖いような気がしていましたが、実際に読み進めると、ただの「死」をめぐる話ではなかったのです。「大切な人を思う気持ち」や「生きる意味」を深く考えさせられる物語でした。

主人公は、突然「明日、君が死ぬ」と分かってしまう

力を持つてしまいます。最初はただの偶然のように見えて、その力が間違いではなかつたときの恐ろしさは想像を超えていました。「もし自分が同じ力を持つてしまつたらどうするのだろう」と僕は考えました。きっと誰かを助けたいと思うでしょう。しかし、同時に「もしその力をもつていること事態が間違っていたら」とか「助けられなかつたらどうしよう」と不安になるだろうと思っています。その葛藤<sup>かとう</sup>がこの物語には強く描かれていて、ページをめくる手が止まりませんでした。

特に心に残つた部分は、主人公が「誰かの死を知つてしまつたときに、自分に何ができるのか」という問いを必死に考える姿です。たとえ自分が傷ついても、大切な人を守りたいという気持ちは、とても人間らしく美しい

と共感することができました。私たちは普段、明日も当たり前のよう生きていると思っています。でも、この物語は、「明日は必ず来るわけじゃない」という事実を突きつけられます。私は胸にささりました。そして、だからこそ、今そばにいる人を大切にすること、一日一日を悔いなく過ごすことが大事なのだと気づかされたのです。

また、主人公とヒロインの関係もとても印象的でした。最初は普通のクラスメイトのように見えていました。「死」という大きな出来事を前にした時、お互いを支え合う姿はとても強く、そして切なものでした。読みながら二人のことを自分に置きかえ、考えたことは、「もし自分が大切な友達や家族が明日いなくなるとしたら、

自分はどんな言葉を大切な人達にかけられるだろう」ということです。普段は照れくさくて言えない「ありがとうございます」という感謝の一言や「一緒にいて楽しい」という素直な気持ちを、ちゃんと伝えておくべきだと感じました。

私自身、日々の学校生活や友達との時間を「当たり前」と思つて過ごしています。しかし、この本を読んで「当たり前はいつか突然なくなるかもしれない」という考えが起きるようになりました。それはとても怖いことです。でも逆に言えば「だからこそ今日を全力で生きよう」という前向きな気持ちにもなれます。人は必ず死ぬ存在ですが、その人生の中でどう生きるかが一番大切だと思うのです。

この本を読んで、私は自分の周りの「大切な人に対し

て後悔しないようにしたい」と強く思います。例えば家族に冷たい態度をとってしまったり、友達にきつい言葉を言つてしまつたりすることは誰にでもあります。でも、もしそれが最後になつてしまつたら、一生後悔すると思うのです。だからこそ「相手を思いやる気持ちを忘れなすこと」が、自分にとつても相手にとつても「幸せにながる」のだと思います。

私は「死」というテーマを扱つてているのに、不思議と暗い気持ちだけでは終わらなかつた…。むしろ「生きることの尊さ」や「誰かを大切に思う気持ち」を前より強く感じられるようになつたのです。

これから日常生活の中で、この本から学んだことを小さなことから実践していきたいです。友達や家族に対して

感謝の気持ちを言葉にすること。悔いのないように毎日を大事にすること。それが私がこの本から受け取つた一番大きなメッセージです。『明日、君が死ぬことを僕だけが知つていた』は、私にとつてただの小説ではなく、「生き方」を考えるきっかけをくれた一冊になりました。

読んだ本「明日、君が死ぬことを

僕だけが知つていた」

## 銀賞

目指せ県大会!!

細田中学校 二年 岸本 空恋

夏の日差しが照りつける中、私はボールを追う。焼けた肌に、汗が流れ、息も上がるけれど、足を止めること

なった。

はない。この夏の暑さの中でこそ、自分の限界に挑んでいる気がする。

私が『野球ノートに書いた甲子園』という本を読もうと思ったきっかけは、このタイトルが今の私と同じ状況で共感できるのではないかと思ったからだ。

特に心に残ったのは、チームメイトとうまくいかずに悩んでいた球児のノートの一節だ。そこには、「勝ちたい、でも伝わらない、どうすればいいんだろう。」という言葉が書かれていた。その言葉を目にしたとき、まるで自分の気持ちを代弁しているように感じた。

この本には、全国の高校野球に取り組む十三人の球児たちが書いた、実際の野球ノートが紹介されている。そのノートには、技術面の反省や練習の記録だけではなく、

私は今、女子ソフトテニス部に所属し、日々の練習を励んでいる。私も何度も、「勝ちたい。」という強い気持ちが空回りしてしまい、うまくいかないことがあった。

自分が弱さや葛藤、仲間との関係、そして夢への熱い思いがたくさんつまついていて、一人一人の本気の思いがストレートに伝わってきた。ページをめくるたびに、部活動に本気で取り組んでいる一人として、何度も心が熱くなつた。

トレーントに伝わってきた。ページをめくるたびに、部活

仲間に思いを伝えようとしても、うまくいかないばかりか、逆にギクシャクしてしまうこともあった。でも、この本に出てくる球児たちは、悩みながらも、自分と向き合って、あきらめずに前を向いて努力を続けていた。その姿に、自分ももつと頑張りたい、夢を追いかけたいという気持ちが強くなつていった。

私は、以前から「心のノート」と呼んでいるノートを書いている。そのノートには、部活でうまくいかなかつたことや反省、仲間への思い、そして自分の気持ちを正直に書いている。最近よく書いているのは、「地区大会で優勝したい。」という目標についてだ。毎日のようにその思いを書いている。不安になるときもあるが、ノートに書くことで、自分の気持ちをごまかさずに見つめる

ことができ、「もっと努力しよう。」「絶対あきらめたくない。」という気持ちがどんどん強くなつていく。「心のノート」は、今の私にとつて大切な支えだ。書くことで、頭の中が整理されたり、落ち込んだときにも、自分を励ましてくれたりする。そして、数か月前に書いた自分の言葉を読み返して、「このときより成長できている。」と思えたとき、ノートが自分の歩みを記録してくれていることに気づくのだ。

この本を読んで改めて思ったのは、「言葉にして残すこと」は大切だということだ。気持ちを書き出すことで、自分の中のモヤモヤがはつきりと表現され、自分自身としつかり向き合うことができる。そして、その積み重ねが夢への一步につながっていく。だからこそ、私はこれ

からも、「心のノート」に自分の気持ちを書き続けていきたいと思う。

地区大会優勝という目標は、まだ遠く感じることもある。でも、自分の思いをノートに書き続けることで、少しずつ目標に近づいていける気がする。何より、「勝ちたい」「もっと強くなりたい。」という思いも、これらももち続けたいと思っている。

ノートはただの記録ではなく、自分の気持ちと目標をつなげてくれる大切な存在だ。毎日の中を感じたことや、目標への思いを自分の言葉で書き続けることで、自分を見つめ直すことができたり、自分の弱さと向き合うことができるのだと気づいた。

また、この本を読んでから、自分がこれまでやつてき

た努力や練習は目標を達成させる一部にすぎないことに気づいた。“優勝する”という目標は、ただ願うだけでは、近づかないでの、日々の練習の中での課題を改善していきたい。その積み重ねこそが、本当の強さにつながり、夢への実現につながるということを、学ぶことができた。

### 読んだ本

「野球ノートに書いた甲子園」

## 銅賞

### 音が消えてゆく世界

榎原中学校 三年 河野 茉友

めていくと思っていたよりも文章に違和感がなく、作者の語彙力に感嘆しました。

私は、『残像に口紅を』という本を読みました。この本と出会ったきっかけは、SNSの動画内で紹介されていて、この本の題名の残像とは何だろうと気になつたからです。

この本は、多く存在する音が少しづつ消えてゆく世界で執筆し、飲食し、生活していく小説家を描いた物語です。私は、この存在する音が消えてゆく、という点に衝撃を受けました。なぜなら、小説は文字で読み手に物語の世界を伝えているのに、作者はわざと音を消して伝えられる情報を少なくしているからです。しかし、読み進

この本の中では、音が消えた影響で登場人物や、あらゆるもののが元からなかつたものとなる現象が起こります。それに対して、残された者達は、そこにあつたと分かるのに、そこにあつたものが分からぬといつた、モヤモヤする気持ちになり、読んでいる側もいつももどかしい気持ちになりました。しかし、物語の中の人達にとっては、名前を知っている人達が突然居なくなつて、存むな在すらも忘れ、虚しさしか残らない、最悪な現象だなと思いました。もし、私が物語の中の人物だつたら、大切な人を忘れることになるので、絶対に物語の中の人物になりたくないなと思いました。

主人公である男には、妻と三人の娘が居ましたが、音

が出来ました。

が消えてゆくにつれて一人一人消えていく最中、主人公が消えた娘に対して、化粧した顔を見たかつたと、脳裏に浮かぶ残像に口紅を差していた描写がありました。私はそこで読む前に気になっていた残像とは何かを知り、残像とは、消えていった人達のことなのだと思います。そして、残像はあつという間に目の前からなくなってしまふものなので、消えていった人や物は、誰にも知られないままで、想い出に残らないまま消えてしまうと思うと、寂しいものだと感じました。だからこそ、主人公が紅を差したのは残像が少しでも長く存在できるようにするためでもあったのかな、と思いました。

私は、この本を読んで多くのことについて考えること

一つ目は、人はいつも使っていた言葉がなくなると、その人の個性がなくなってしまうことです。例えば、自分自身をどう呼ぶか、語尾や、言葉の選び方にもその人の個性ができます。しかし、この本の中では使える文字が決められているので、いつもとは違った話し方になり、個性が無くなってしまいます。文章の中では、人間ではなく、まるで人間を装っている何かのようだと表現され

ていて、まさにその通りだと思いました。

二つ目は、残り少なくなった音で、文章を作ると、一つ一つの文の長さが短くなり、工夫をして作らないと意味が通じなくなってしまうことです。物語の最後の方では少ない音で構成されているので読む時には、文を見て

想像することが多かったです。想像することが出来ると

た。

いうことは、文がしつかり作られている、ということなので、オノマトペや同音異義語などを使つて文を工夫しながら書いている作者には目を見張るものがありました。

三つ目は、音が消えてゆく世界での対処法についてで

す。しかし、私は、物語の主要人物になりたいので、この策は、私だったらあまり使わないとと思いました。

この本は最後には全ての音が消えてしまうので、それまでの世界で消失するものを減らすにはどうすれば良いか考えた結果、新しい呼び方を考えることができると思いました。最近では、若い人達を中心に略語が生み出されているため、もし私が物語の中の登場人物になつても、新しい名前や略語をたくさんつけたら、音が消えたときの被害が少なくて済むのではないかと思いまし

た。また、主人公に名前を知られなければ生き残れると思いました。その理由として、文中に出てきた名前が出なかつた男は、名前が無いため、消すことが難しいからです。しかし、私は、物語の主要人物になりたいので、この策は、私だったらあまり使わないとと思いました。

この本の最後は、前の方のページのようにびっしり文字がなく、空白は目立つようになり、本当に本の中の世界が消えかかっているようでした。一番最後には、「ん」を引けば世界には何も残らない、と書かれていて、その後の空白が世界の終わりを告げているようで、読み終わると満足感と共に虚しさを感じました。もし、もう一度読むことがあつたら、消えた音について注目しながら読

みたい  
です。

## 読んだ本「残像に口紅を」

入選

『下町サイキック』を読んで

東郷中学校 三年 池田 柚希

この本は吉本ばななさんが描く、下町を舞台にした心温まる物語です。主人公のキヨカは「氣」が見える特殊な力を持つ中学生で、その力を使って、近所の「友おじさん」が営む自習室の空間を清めるアルバイトをしています。日々訪れる人々の気配や感情を敏感に感じ取りながら彼女は下町の人間模様をみつめていきます。

物語の魅力は、温かな人情と厳しい現実が同時に描かれているところにあります。キヨカのお母さんは離婚し、お父さんは自殺未遂を経験します。普通なら話しづらい

こうした出来事が淡々と、誠実に描かることで読む人は自然と物語の中へ引き込まれます。

キヨカは特別な力を持つ一方で、家庭や人間関係に悩み、揺れ動く思春期の少女でもあり自分と同世代の女の子です。その姿は能力というフィルターを通して成長する物語として胸に響きます。また、友おじさんという存在が物語に大きな安心感を与えていました。彼はキヨカの能力を特別なことだと思わずに絶妙な距離感で寄り添う大人です。家族とは違うけれど家族以上に心を許す存在がいること、それは現代社会においても稀で、それでも大切なことだと感じました。さらに誰もが顔見知りで小さな変化や噂が瞬く間に広がる環境は息苦しさとともに安心感も与えてくれます。

読んでいて印象的だったのは「特別な力」が物語の中ではあるけれど、それが決して万能ではなく、微妙な人間関係や現実の困難の前ではむしろ無力に感じられる瞬間があることです。その時に支えとなるのは相手のことをまるごと肯定してくれる人や、そつと見守ってくれる場所なのだと気づかされます。

作者の吉本ばななさんは、この当たり前のようで忘れがちな日常を優しく、力強く伝えてくれています。

「ぼたんどうろう」というエピソードを紹介します。  
最初は題名の意味がよく分からなかつたけれど、読んでいくうちにぼんやり揺れる灯のような人の気持ちや思い出が残っていることを表しているのかなと思いましました。キヨカが出会った少女「ともみ」は、すでに亡くな

つていたけれど、自習室でも仲良く過ごせるようになり

ました。ある時、ともみからお願ひ事をされました。そ

の内容は、「私のパパとママに、ありがとう愛してる

を伝えて。これから長い、子どもがいない生活が、穩

やかで幸せでありますように。あと、私のスピーカーを

彼にあげて。彼にも、幸せになつてほしい。最初は

彼が他の人とつきあって、私してくれたようにプレゼ

ントを選んだり、他の女の人の親と仲良くするなんて考

えただけで発狂しそうだった。でも、今は違うの。今み

たいに淋しい顔で、思い出の場所にひとりでいてほしく

ないなって思う。」そうつぶやいて、彼女はふわっと消えてしましました。この思いをキヨカはともみの両親へ伝えに行きました。両親は驚いていたけれど、涙を流して感謝の言葉をキヨカにたくさん話していました。

キヨカは人には見えないものを感じ取れるけれど、それを怖がらずに受け止めているところがすごいなと思いました。私だったら不安になつてしまふのに、キヨカはまっすぐに人の心に向き合つていて尊敬したし、この場面が優しく、温かくて心に残りました。

エピローグを読んで、これまでのお話が静かにまとめられてているように感じました。

大きな事件や大きな出来事があるわけではないけれど、キヨカが自分の力や周りの人とのつながりを受け入れて前を向こうとしている姿が印象に残りました。特に、日常の中に小さな希望や安心があることを教えてくれるようで、自分の生活の中でも大事にしたいと思いまし

た。読み終わった後に心がホッと温かくなるエピローグ

りの人をもっと大切にしたいなと思いました。

でした。

### 『下町サイキック』を読んで、最初は「サイキック」

という言葉から怖い話なのかなと思つたけれど、実際はとても温かい物語でした。キヨカは特別な力をもつているけれど、その力は人を遠ざけるものではなく、人の気持ちやつながりを深く感じられる大切なものだと気づきました。友おじさんとの関係は、家族のようで友達のようでもあり、読んでいてとても安心しました。下町の人々もそれぞれに悩みや弱さを抱えているけど支え合いながら生きている姿がいいなと心に残りました。この本を通して見えないものを信じる気持ちや、日常の小さな幸せを大切にすることの大しさを学びました。私も周

読んだ本「下町サイキック」

## 入選

### 個性ある自分

しつかり教えてくれる優しい少女です。

僕が特に印象に残ったのは、檸檬先生が時折、少年に

榎原中学校 二年 山本 瑞央

たまがわ

れもん

僕は、夏休みに入る前から珠川こおりさんの、『檸檬先生』という本を読み始めました。最初にこの題名を見た時、果物の檸檬が先生とどう関係しているのだろうと考えました。この本を読み進めると、一人の少年と一人の少女の関係性を描いていたり、友達との関わり方を考えさせられたりする内容の話であることが分かりました。物語の中心にいるのは檸檬先生と呼ばれる先生です。先生といつても、まだ中学三年生の少女です。彼女は、一見冷たくてとても落ち着いているように見えますが、一人の少年のために勉強や社会の厳しさなどを

厳しい言葉をかける場面です。言葉だけを見ると冷たく感じますが、その後の先生の行動を見ると、あの言葉に理由があったのだなと思うことができました。檸檬先生の、直接、正しい事を言うだけではなく、自分で考えさせて、見守るという考えがとても素敵だなと思いました。僕は、「相手に分かってほしい」や「助けてほしい」と思う感情を持った経験があつたので先生はすごいなと思いました。実は小学校の時、問題の答えが分からず、「答えを知りたい。」「教えてほしい。」と思つたことがありました。しかし、「もう一回自分の力で解いてみなさい。」と言われ、その理由があまり理解できませんで

した。だけど、中学生になり、すぐ答えを教えてもらつて、それは自分の力にならないということに気がつきました。それを踏まえて友達に勉強を教える時は、答えを教えるのではなく、それを解くためのヒントを教えるよう心がけています。

もう一つ心に残った場面は、少年と檸檬先生との関わりを通して少しずつ変わっていく周囲との関係性です。少年は最初、「自分の事なんて信じてくれる人はいない」と思っていましたが、徐々に考えも変わつていき、自分を信用してくれる人は必ずいるのだということに気付きました。人は誰でも、生き、明るく前向きになつていきました。人は誰でも、自分がことを信じてくれる存在がいるだけで、強くなれることが分かりました。僕も、家族や先生、友達に

励まされた場面が何度もあつたため、この感情はとても分かります。緊張している場面でも、誰かから応援されるだけで、不思議と自分に自信ができます。そのおかげで良い結果につながった経験から、少年と僕の体験が重なつて感じることができました。

この本の終盤では、少年が二十歳、先生が二十五歳と成長し、久しぶりに再会しましたが、悲しい結末となつてしましました。この少年と先生は共感覚という音や数字が色に感じたり、人の名前を色でないと覚えられなかつたりという個性を持っていたのです。しかし、そのせいで日常の中になじめず、いじめられていましたが、先生に出会つて他人との接し方が変わり、いじめられることが無くなつていきました。

この『檸檬先生』という本を読んで身に付いたことは、人と人との関わり方には色々な形があるということです。仲が良く側にいるだけの人や、何でもすぐに信じることが友情や信頼ではないと思います。時には少し距離を置いて見守つたり、時には相手の力を信じてみることが大切なのだと思います。誰かと仲良くなるには、一定の距離感を大事にして、この本に描かれている、信じてみると、待つことの大切さを学びました。この物語

した。この本を読む前にも、少し考えたことはあります。たが、ここまで深くは考えたことがなかったので、自分の考えを再確認できたので良かったです。

『檸檬先生』という本はただの小説ではなく、自分自身の考え方や行動を変えさせてくれるありがたい本でした。自分だけだと思っていた個性がもしかすると、身の周りの人にもいるかも知れないという安心感を持つことができました。これから先、僕は家族や先生、友達と

の関係の中で、この本から学んだ一定の距離が大事といふことを胸の中に留めておきたいと思います。そして、自分も周りの人にとって、安心して頼れる存在になれるようになります。

助けすぎないことも優しさなのではないかなと思いま

読んだ本「檸檬先生」

## 読書感想文の審査を終えて

昨今、読書離れやペーパーレスが進んでいます。「行間を読む」などというのは、死語になるのでしょうか。情報化社会において、何をどう選べばよいか、無数の選択肢から自分で考え、選択することは困難を極めるでしょう。また、1人1台のタブレットPC、生成AIの台頭など生徒たちを取り巻く環境は、想定を上回るスピードで変化しています。反面、日本の伝統文化は世界からも注目を浴び、日本食は世界遺産になりました。学校では伝統文化の継承、ふるさと学習の推進などが盛んに行われています。

今回の読書感想文を審査する中で、あらためて「読書のよさ」「日本語の表現の奥深さ」「感性を磨き続けることの価値」を感じることができました。

どの作品も作者の思いを「咀嚼そしゃく」し、共感するだけでなく自分の考えと結びつけながら表現することができます。どの場面をどう切り取り、どう表現するか、それこそ「個性」です。学年も学校も違う生徒たちの表現は「人十色」でした。日南市内の生徒にはこんなにもすばらしい「豊かな感性」と「表現力」があるのかと感じました。

「生成AI」に負けない表現力を垣間見ることもできました。人間の感性は、磨き続ければ、その輝きを失われることはありません。

これからも日南市内の児童生徒の皆さん、読書に励み、感性を磨き続けることを期待しています。そして、感じ取ったことを表現し、次年度もすばらしい応募作品が集まることを心より願っています。

日南市立榎原中学校 校長 日高幸浩

讀書感想画入賞作品

【小学校一年生の部】



金賞 油津小学校 山根 智稀

読んだ本「ネズネズのおえかき」



銀賞 油津小学校 田中 想士

読んだ本「かいじゅうのすむしま」



**銅賞** 酒谷小学校 大嶋 声の花

読んだ本「おどってるこまってる」



**入選** 吾田東小学校 蟻原 啓斗

読んだ本「かめれおんせん」



**入選** 桜ヶ丘小学校 酒井 壱虎

読んだ本「ごきげんななめの  
てんとうむし」

## 【小学校二年生の部】



金賞

桜ヶ丘小学校

忠地 虎太郎

読んだ本「かわいそうなぞう」

銀賞

吾田東小学校 鈴木 結慎

読んだ本「かいじゅうのすむしま」





銅賞 油津小学校 竹脇 葵凪

読んだ本「かいじゅうのすむしま」



入選 吾田小学校 発田 恋央

読んだ本「おまえうまそуда」



入選 南郷小学校 水野 琴葉

読んだ本「いっすんぼうし」

【小学校三年生の部】



金賞 潟上小学校 谷口 結理

読んだ本「たんたのたんけん」



銀賞 桜ヶ丘小学校 島田 潤奈

読んだ本「火の鳥」



銅賞 東郷小学校 中村 晓太郎  
読んだ本「雪窓」



入選 吾田小学校 河野 新  
読んだ本  
「かぶとむしとくわがたむしのひみつ」



入選 北郷小学校 河野 萌音  
読んだ本  
「オリンピックのおばけずかん」

【小学校四年生の部】



金賞 南郷小学校 上原 叶聖

読んだ本「小学館の図鑑 N E O 魚」



銀賞 東郷小学校 竹中 風結

読んだ本「馬子と山んばばあ」



銅賞 大堂津小学校 岡澤 芽生  
読んだ本「ぼくのがっこう」



入選 桜ヶ丘小学校 井上 大護  
読んだ本「銀河鉄道の夜」



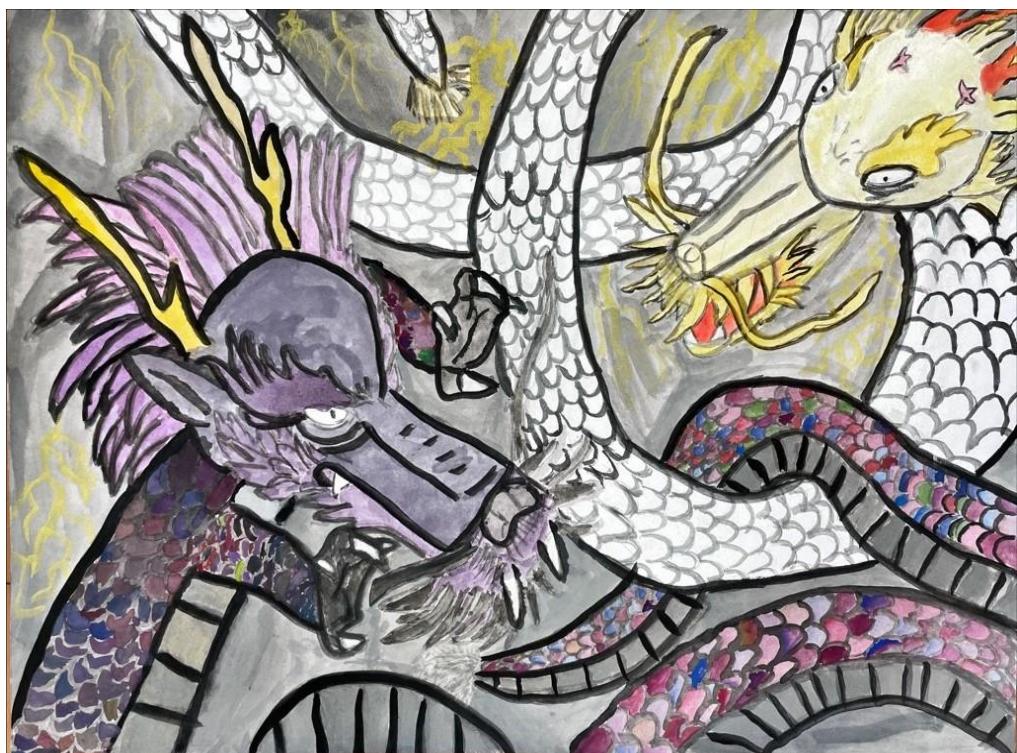
入選 吾田小学校 荒武 唯月  
読んだ本「うまれてきてくれて  
ありがとう」

## 【小学校五年生の部】



金賞 南郷小学校 城戸 妃羽

読んだ本「わたしの名前は  
オクトーバー」



銀賞 桜ヶ丘小学校 長友 翼

読んだ本「白いりゅう黒いりゅう」



**銅賞** 吾田東小学校 矢上 空

読んだ本「羽毛恐竜 恐竜から鳥への進化」



**入選** 北郷小学校 川畑ひかり

読んだ本「ねむれないおうさま」



**入選** 飫肥小学校 小野 琴音

読んだ本「三分間ミステリー  
悪魔のささやき」

## 【小学校六年生の部】



金賞

吾田小学校 板東 桃愛

読んだ本「ぼくのこころがうたいだす！」

銀賞

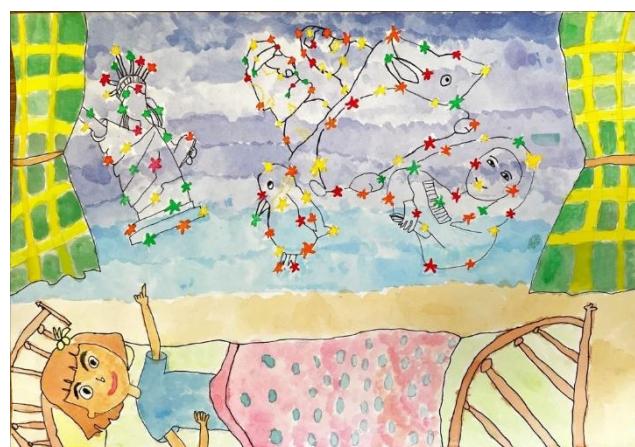
飫肥小学校 濱田 一華

読んだ本「マツチ売りの少女」



**銅賞**

油津小学校 魚見 市香  
読んだ本「かなたの i f」



**入選** 大窪小学校 杉田 悠馬

読んだ本「わたしのあくび  
みなかつた？」



**入選** 細田小学校 森 雪月

読んだ本「じいちゃんの山小屋」

## 読書感想画の審査を終えて

本を読んで、物語の中に入り込み、わくわくしたり、感動したりした気持ちを絵で表現するのが読書感想画です。皆さんのが絵からは、物語への深い思いが伝わってきました。

どの作品にも、たくさんの工夫が見られました。今回は、金賞の作品について、特に素晴らしい点を紹介します。

一年生、山根智稀さんの作品。動物を画面いっぱいに大きく描き、たくさんの色を使って塗り分けています。主役の人物や動物が、色の変化や大きさでとてもよく目立つように工夫されています。

二年生、忠地虎太郎さんの作品。画面の真ん中のゾウの表情が、本当にかわいそうで、気持ちが伝わってきます。背景の紫色がその気持ちをさらに強くしています。筆の運び方や色の重ね方も、とても上手です。

三年生、谷口結理さんの作品。顔の表情が大胆で、画面への配置が面白いです。特に手のひらの大きさの変化が、ひょうの子と主人公の生き生きとしたやりとりを感じさせます。

四年生、上原叶聖さんの作品。様々な海の生き物が生き生きと描かれています。画面からはみ出して描くことで、海の世界がどこまでも続くように感じられます。魚がとても詳しく描かれていて、魚への愛情が伝わってきました。

五年生、城戸妃羽さんの作品。少女の表情から、フクロウとの心のつながりの深さが伝わってきます。背景の落ち葉の色合いと、羽の模様の対比や、細かい筆で描かれた木が、美しい画面を作っています。

六年生、板東桃愛さんの作品。主人公が頭の中でイメージを広げる様子が、幻想的に美しく表現されています。人物の表情も構成も面白いですが、背景の色の選び方や塗り方の工夫が、絵に特別な雰囲気を作り出しています。

入賞した皆さん、おめでとうございます。そして、応募してくれた皆さん的作品にも、一つひとつ、素晴らしい工夫がありました。

絵の描き方や色塗りに「こうしなければいけない」という決まりはありません。あなたの感動が、絵を見た人に伝わるように、これからいろいろな表現に挑戦してください。

細田中学校 校長 清俊一

## 審査員氏名一覧

|        |            |
|--------|------------|
| 日高 幸浩  | 榎原中学校      |
| 伊鹿倉 洋樹 | 南郷小学校      |
| 小西 英夫  | 社会教育指導員    |
| 東 嘉太郎  | 社会教育指導員    |
| 米良 照彦  | 社会教育指導員    |
| 榎木田 文生 | 社会教育指導員    |
| 新改 和朗  | 学校教育課 指導主事 |
| 清 俊一   | 細田中学校      |
| 松浦 和枝  | 南郷小学校      |
| 栗山 大介  | 飫肥小学校      |

令和 7 年度

日南市読書感想文・読書感想画コンクール受賞作品集

第 17 集

令和 8 年 2 月発行

発行　　日南市教育委員会　生涯学習課

日南市中央通 1 丁目 1 番地 1

編集　　日南市教育委員会　生涯学習課図書館係

日南市飫肥 2 丁目 6 番 18 号

電話　　(0987) 25-0158

